

スマートインターチェンジ

社会実験

問 吉備サービスエリアを活用したスマートIC（インターチェンジ）社会実験の実施に向け、今後の予定は。

答 平成17年度の実施を国に要望している。この実験は将来の本格的なインターチェンジの設置や外環状線との接続等、構想の端緒となるものであり、また国としても道路投資の合理化や環境負荷の軽減等の効果が得られるため、採択が大いに期待される。今後、国や県、警察、道路公団等と協議会を設置して実施計画を策定し、国から承認を受けることとなる。

浸水対策に有効な

可搬式ポンプ十台を配備

問 高潮等の浸水対策に有効な可搬式ポンプの平成17年度の配備予定は、災害時に全市的運用を行う考えは。

答 毎分3トンの排水能力を有するポンプを、16年の台風による高潮被害が大きかった児島支所管内に十台配備する予定だ。市水防本部等の設置時はその指示に従うことなどを定めた管理協定を、ポンプを預かってもらう地元と締結し、災害時には広域的運用を行いたい。

下水汚泥の資源化を推進

問 下水は目に触れにくく市民の関心が低い。処理過程で発生する汚泥の処分方法は。

答 平成15年度に発生した脱水性汚泥は、セメント原料として約九千五百トン、肥料原料として

約八百トン、埋め立てとして約千二百トン処分した。16年度は埋め立てを止め、セメント原料を主としてすべて資源化を図っている。今後、一層の安定性・経済性確保のため、処分方法の複数化に向け、有効性が確認された肥料化実験の成果を生かし、さらに調査検討を進めたい。

福祉・教育

介護予防遊具

公園への設置を推進

問 介護予防遊具を設置し、高齢者と幼児が共有する公園づくりに取り組む考えは。

答 既に臨港グリーンアベニューや東山公園等に、健康増進施設として背伸ばしベンチ、ぶらさがり器等の遊具や健康遊歩道を設置している。今後も、高齢者から子どもまで多くの世代が参加・交流でき、健康づくりや介護予防に役立つ場として利用できるよう取り組みたい。

文化芸術の分野で

無形文化財の積極指定を

問 文化芸術の分野で優れた人材を、重要無形文化財として積極的に指定しては。

答 現在、本市指定の重要無形文化財は工芸技術の二名にと



公園で手軽に健康づくり(臨港グリーンアベニュー)



どまっている。条例では、演劇、音楽、工芸、芸術、その他無形の文化的所産で歴史、芸術的に価値の高いものとなっており、指定の範囲が広く、可能性を持つ方は多いと考える。今後、条例に即し運用の幅を広げ、積極的に市文化財保護審議会に諮問していきたい。

生活保護受給世帯の

自立に向けた取り組みは

問 生活保護の受給率が上昇する中、被保護世帯の自立に向けた取り組みの状況は。

答 平成14年度から本市独自の施策として、職業紹介業務の経験を有するハローワークのOBを就労支援相談員として登用し、大きな成果を得ており、引き続き取り組んでいきたい。また、17年度の機構改革で、ケイスワーカーを指導する査察指導員の増員を図る予定であり、今後も必要に応じ柔軟に人員配置を充実させる考えだ。



用語解説

1 スマートIC = 一般道に容易に接続可能な既存の高速道路のサービスエリア等やETC専用道路の建設・管理コスト削減が可能となるインターチェンジ。

会派の異動

市民ネット 脱会

楠木 忠司
無所属 楠木 忠司

会派役員の変動

日本共産党岡山市議団
(新) 団 長 田畑 賢司
副 団 長 崎本 敏子
政策委員長 藤沢 和弥
(旧) 団 長 藤沢 和弥
副 団 長 田畑 賢司
政策委員長 崎本 敏子

次回本会議のお知らせ

5月臨時会は5月16日(月)から5月17日(火)まで、6月定例会は、6月9日(木)から6月24日(金)まで開催の予定です。

編集後記

平成17年2月定例会では、平成17年度予算や合併関連の条例改正、規約変更など市政の重要課題について活発な質問戦を繰り広げました。市議会だより第三十六号では、これらの内容についてお伝えします。ご一読いただければ幸いです。

